

参加報告書

国際環境工学部情報システム工学科 1 年（参加時）

1. 留学先での取り組みについて

セルカーク大学の授業は、**Grammar, Writing, Reading, Communication** の四種類にわかれている。総合的にどの授業も生徒自身で考え、自らコミュニケーションをとることが必要であり、英語に対する積極性を重視する授業だと感じました。**Grammar** の授業は、主に基礎的な文法を学ぶ場面が多く、簡単なゲームなどを通してクラスメートと英語でコミュニケーションを取りながら楽しく学ぶことが出来ました。**Writing** の授業では、先生が積極的に生徒に答えさせる場面を多くとられておりクラスメート全員で課題について考えていく活動がメインでした。また、授業の初めには週末のホームステイ先での活動などを文章にまとめ、それをほかの生徒と共有するという活動が行われました。**Reading** の授業では、英語の様々な記事を読みそれに対する問題を解いていくという活動が主であり、自分自身にとっては少しハイレベルな授業だと感じました。記事に含まれている英語の語彙や、文章を読むのに設けられている制限時間などのレベルが非常に高く感じたからです。**Communication** の授業では、森林伐採などの環境問題について、意見を出し合っていく活動が主でした。また、セミナーの授業が二回あり、一回目は熊に遭遇したときの対処法などについて、二回目は、カナダの歴史についてでした。キャッスルガートは熊が多く生存している地域であり、一回目のセミナーを通して、どう熊と共存していくかを深く知ることができた貴重な機会でした。同じクラスの生徒は、韓国、中国、メキシコ、ウクライナ、カナダなどの様々な国の方々の人で構成されており、中には子供がいる母親の生徒の方もかなりいて、幅広い年齢層でした。

2. 学校での経験について

私は本当にすてきな家族のホームステイ先で日々を過ごすことができ、心からお世話になったホームステイ先の方々に感謝しています。この家族のおかげで、一か月間で、様々な経験をさせてもらいました。日々の生活では、一緒に料理をしたり、スヌーカーというゲームをしたり、大きな機械をつくる作業をしたりする中で、現地の人の文化を理解するとともに、積極的に英語のコミュニケーションをとり、自分自身の英語力上昇につなげることが出来ました。また、週末に連れて行ってもらった旅行では自宅のあるキャッスルガートとはまた違った雰囲気、野球観戦やショッピングなど最高の思い出を作らせてもらいました。私はこの留学では、一か月間のみということもあり、とにかく多くの生徒に話しかけ、積極的にコミュニケーションをとることにチャレンジしました。その結果、他コースの友達もふくめ、インドや韓国、中国、メキシコ、フィリピンといった様々な国の友達ができ、放課後に一緒にジムでスポーツを楽しみました。それぞれの国で人気のスポーツを教えてもらい、スポーツを楽しむ中で、お互いの文化を理解しあった貴重な時間でした。週末には家族とのイベントだけでなく、自転車で近くの公園にでかけたり、隣町で開催されるフェスティバルに参加したり、カヤックを楽しんだりするなどして過ごしました。公園に出かけた時には小

さな博物館に行き、カナダの歴史を学びました。その公園は本当に景色がきれいで、自然の素晴らしさに圧倒されたのを今でも覚えています。隣町で開催されたフェスティバルは車のフェスティバルであり、1900年代の古く、非常にユニークな車が数百台展示されており、多くの人が集まっていました。

3. 留学生活を通して得た学び、自分自身の変化や気づきについて

私は心の底からこの留学に参加してよかったと思います。この留学を通して、得た学びは主に三点あります。一点目は、様々な文化の理解です。実際に多文化の家族の一員として日々生活を行うことで、インターネットや本などで調べるだけではわからない文化を多く発見できたと思います。二点目は、自信をもって発言することの大切さです。私は今回の留学を通して多くの出会いがありました。ホームステイ先の家族、そしてその親戚、学校での友達などです。そのような人たちと話す中で自分自身が最も素晴らしいと感じたのは、彼らが自分の意思をしっかりと持って、それを自信を持って恥ずかしがらずに相手に伝える姿です。日本では相手の気持ちを気遣ったり、遠慮したりする場面が多く見られると思います。確かにそれは日本の文化であり、相手のことを考えるという意味では素敵なことだと思います。しかし、自分の意見をまっすぐに伝えコミュニケーションをとったり、授業中に積極的に自分の意見を、良い意味でまわりを気にせず発言したりする海外の人の姿に、私は感動し、尊敬します。それと同時に自分の気持ちに偽りなく発言することの、大切さ、気持ちよさを会話を通して実感できました。三点目の学びは、英語力です。一カ月という短い期間でしたが、やはり実際に友達や家族と会話するときに英語しかコミュニケーションをとる手段がないという状況になると、相手の話していることに真剣に耳を傾け、自分の持っている語彙力で相手に自分の考えを伝えようとします。このような行動は留学でしか体験できない貴重な経験だと思います。私は、総合的に見てリスニングの力が最も上達したと思います。しかし、一カ月で得られた最も大事なことはこれからの英語の勉強に対する意欲をどう変えていくかだと思います。もっと海外の人と深い話がしたい、もっと流暢に話すことで友達との仲をより深めたいという気持ちをこれからの英語学習に強く生かしたいと考えています。

4. 今回のプログラム体験を今後どう生かすか

今回の留学で本当に多くの体験をさせてもらい、いろいろなことを感じました。その中の印象に残った出来事の一つとして、自転車の事故を目の前でみたことです。友達と街中を歩いているときにたまたま自転車事故を目撃しました。その時少し混乱していたということもあり、私の英語力では、周りの人に助けを求めることしかできず自分自身ではなにもできませんでした。英語をもっと話すことができたならと強く感じました。ほかにも家族と話するときある程度の会話はできるようになっても、政治や経済などの難しい内容になると、理解が出来なくなってしまう場面がありました。そういった場面をふまえて、私は次に海外に行く機会までにもっと英語という言語を使いこなせるよう努力をしようと思ふようになりました。この気持ちをこれからの英語学習に生かしたいです。そして、将来私は日本だけでなく海外でも働きたいと考えております。そのためには、日常会話だけでなく専門的

な英語も習得していかなければなりません。そこにたどり着くまではかなりの努力が必要だ
と思いますが、一年生でこの留学体験をできたことを自信にして努力を惜しまず挑戦してい
きます。

セルカークカレッジ活動報告

国際環境工学部 情報システム工学科 4年（参加当時）

私は一ヶ月間カナダのセルカークカレッジで留学した。ホストファミリーに最初に会ったのは小さなキャッスルガー空港だ。初日は、まだカナダでの生活に慣れず、ご飯があまり食べられなかった。また彼らの英語も全く聞き取れなくて大変だった。そんな私に彼らはボードゲームや映画を一緒に楽しんでくれて、すぐに生活に馴染むことができた。授業が始まるまで、彼らはいろいろなところに連れて行ってくれた。

Kokanee park では、1年の間でこの時期にしか見るできない、赤色のサーモンを見ることができた。サーモンが川の高い所に頑張って登ろうとしている光景も見えた。

ビーチパーティーでは、教会の人々と共にカヤックをしたり水上バイクに乗ったりホット



ドッグを食べたりと、さまざまなアクティビティを楽しんだ。私はこの場でたくさんの人に積極的に話しかけた。現地の若い人達は日本の漫画や音楽に詳しくあったため、話題が広がり会話を楽しむことができた。

また、2日後に再び別の湖に行った。そこではハンバーガーやスナック、スイカを食べたり、野生の鳥やリスに餌をあげたりした。ルームメイトと私は湖の中にある大きな岩を探しに水中へ入ったが、結局見つけられなかった。水中はとても冷たく、季節のギャップを感じた。

最初の学校のイベントは Get Connection と呼んで、様々な学生と交流を深めるレクリエーションイベントである。そこで私は様々な生徒に話しかけ、友好関係を作り、全力でアクティビティを楽しんだ。その日の夜は、ルームメイトの韓国人に日本の味噌汁を振る舞った。味は韓国のもので少し違いがあったみたいだが、彼はとても喜んでくれた。

セルカークカレッジの講義は日本のものとは違った雰囲気新鮮だった。先生が皆フレンドリーでテンションが高く、講義を楽しめるものにしようとしているのが伝わった。放課後はみんなで体育館に行っているようなスポーツを楽しんだ。そこにはインド人やフィリピン人、韓国人、メキシコ人など様々な国の人々がいたので、一緒に誘って遊ぶ時

もあった。国によって発音の癖がかなり違ったので、リスニングが大変だった。しかし、スポーツは言語の壁を超えることを実感した。

私とルームメイトは木曜日が全休だったので、近場のアジアレストランに行った。そこには日本食や韓国食もあったので、お互いにそれぞれの母国の料理を食べた。私は寿司と



味噌汁を食べたが、やはり味は日本のものと少し違っていた。日本食の素晴らしさに身をもって体感することができた。

そして二回目の週末にはキャビンに行った。キャビンとは木の家で、ホストファミリーが20年かけて自力で作った家である。まずそこへの行き方からアクティブだった。家から車で1時間ほどかけて小さな港へ行き、そこからボートに乗って大きな川を渡る。そしてまた車で10分ほどかけてキャビンへ着く。初めてそれを見た時は衝撃だった。中はちゃんとした一軒家の家で、まるで素人が作ったとは思えないほど立派な家だったからだ。



家についてから、サイド・バイ・サイドに乗って山道を進み、ハイキングをして山の頂上に行った。そしてまた家に戻り、焚き火をしてマッシュマロを食べた。夜には夜景を見に行ったが、今まで見た中で一番の絶景だった。天の川まで見ることができた。

次の日は滝を見に行き、人生初の射撃体験を行った。兵役の経験をしていたルームメイトとホストファミリーはとても上手で、うまく的を当てていた。滝も迫力があり、改めてキャスルガーの自然の素晴らしさを実感した。

学校の講義の時間は基本8時から15時までであり、昼に1時間の休憩がある。この時間はいつも友達とカフェテリアに行っている。そこでいつもやっていたのが、じゃんけん負けたら知らない人に話しかけるゲームだ。毎日様々な国の人のところへいき、話しかけていた。そのおかげか、日に日に友達が増えていき、学校ですれ違う人の大体が顔見知りになっていた。また初対面の時に話す英語のスピーキング力だけ完璧になっていた。ある週の火曜日にはホストファミリーと映画を見に行った。火曜日は映画が安くなるらしく、私はホラー映画を見に行った。キャスルガーの映画の好きだったところは、リクライニングシートがあるところだ。とても快適に映画を見ることができた。しかし、日本語字幕がないので、ストーリーを理解するのがとても難しかった。

その日の夜、寝ていたら深夜にホストファミリーの母親に起こされた。何かかと思い、すぐに自分の部屋の窓をのぞくと、そこにはクマがいた。自分の目の前でゴミ箱を思いっきり漁ろうとしていた。人生初のクマだったのでとても刺激的で、目も覚めてしまった。

毎週日曜日には教会に行った。そこでは人々が自分の体験談とそこで得た教訓について話し、キリストの歌を歌うのだ。その後は教室へ行き、人としての教養を学ぶ。内容がとても難しく日本語でも答えるのが難しいくらいだったが、10~17歳くらいの子供たちが難なく答えていたのでとても驚いた。毎週日曜日に教会へ行くと気分がリセットされ、気持ちよく次の週に臨めるので、とても好きな時間だった。

最後の学校の日、みんなでボーンファイヤーをした。火を囲んでソーセージを焼き、マッシュマロを食べ、カラオケ大会もした。そこで卒業証明書をもらい、学校生活を終えた。その後ホストファミリーとホットスプリングに行った。温水プールでみんなゆっくりしていた。一番驚いた所は鍾乳洞の中にも温泉があったことだ。

たった1ヶ月の留学生活だったが、たくさんの友達ができ、いろんな場所へ行きいろんな体験をしたことで、まだまだここに居たいという気持ちが膨らんでいった。最後のキャスルガー空港では多くの友達が見送りに来てくれて、泣いている人も沢山いた。

今回の留学で私は前より人と話すことが好きになった。また、積極的に人に話しかけていたおかげでリスニング力とスピーキング力が以前よりも格段に上がった。日本と英語圏の文化の違い（良いところも悪いところも）についても身をもって体感することができた。

帰国後も私は積極的に英語の動画を見たりキャスルガーの友達やホストファミリーに電話したりしようと思う。